

保存版

薩摩川内市

地震防災マップ

薩摩川内市

問い合わせ先

薩摩川内市役所建設部建築住宅課

地震に強い家にしましょう

1995年1月の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）では、強い地震動によって約10万5000戸にも及ぶ住家の全壊や、高速道路が横倒しになるなどの被害を受けました。建物被害では、地震に強いと思われていた鉄筋コンクリート造のビルも、1階部分が押しつぶされたり、中間の階がつぶれたりする被害が目立ちました。また、犠牲者の8割は、自宅にて家屋が倒壊したことによる圧死または窒息死でした。

地震は、いつ、どこで起きるか予測できないのが現状です。地震による建物の倒壊から命を守るために、建物の耐震診断や耐震補強を進めることが必要です。

耐震診断を実施することが望ましい建物

バランスが悪い建物

昭和56年以前の住宅など、古い建物

昭和56年に耐震基準が見直しされ、その年の前後で建物の耐震性に違いがあります。昭和57年以降の新耐震基準では、壁の量や基礎配筋などが強化されています。

昭和56年以前に建築された住宅にお住まいの方は、特に耐震診断を受けることが重要です。また、老朽化が著しい建物も早期に耐震診断を受けることが重要です。

「誰でもできるわが家の耐震診断」

地震時の安全のためには自宅の耐震性能を知ることが大切です。

（財）日本建築防災協会が作成している「誰でもできるわが家の耐震診断」を参考に、自宅の耐震性をチェックしてみましょう。

専門家による耐震診断をお考えの方、疑問や不安を感じられている方は、詳しくは建設行政担当部局にお問い合わせください。

<http://www.kenchiku-bousai.or.jp/files/2013/11/wagayare.pdf>

誰でもできるわが家の耐震診断

家の周りや室内の地震対策をしましょう

建物の耐震性を高めることも重要ですが、家の周りの地震対策をしましょう。

■屋外の安全対策

屋根の点検

不安定な瓦やアンテナの補強。

ブロック塀などの安全対策

土中に30センチ以上の基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険です。しっかり補強。

整理・整頓

玄関や通路に危険物や避難の妨げとなるものを置かない。

床組・土台・柱

シロアリの被害にあっていないかの確認。

ベランダの点検

植木鉢などの整理整頓。

プロパンガス

プロパンガスボンベを鎖でしっかり補強。

■屋内の安全対策（台所など）

ガラス飛散防止フィルム

ボール式器具

ビン落下防止具

家具連結器具

消火器

出口をふさがない

開き戸ストッパー

ストッパー付器具

自分たちで出来ること

減災をめざす3本柱「自助」「共助」「公助」

自助

共助

公助

減災をめざす3本柱

自らの命は自ら守る
みんなの地域はみんなで守る

自らの命を守る「自助」と、みんなの地域はみんなで守る「共助」、行政が担う「公助」の3本柱が連携し、バランスよく支え合うことが、減災を進めるうえで重要です。

●地域の防災活動に参加しましょう

災害時は周囲の人々との助け合いが不可欠です。普段の防災訓練などの地域行事への参加を通してコミュニケーションを図り、“いざ”という時に備えましょう。

地震によって発生した火災は、火災保険では補償されません。地震による建物（住宅）や家財の損害に備えるためには、火災保険にセットして地震保険に加入する必要があります。（地震保険だけの加入はできません。）地震保険は、「地震保険に関する法律」に基づいて政府と損害賠償保険会社が共同で運営する公共性の高い保険です。東日本大震災では、約1兆2300億円が支払われました。損害が生じた場合、その程度に応じて、全損の時は契約金額の100パーセント、半損の時は契約金額の50パーセント、一部損の時は契約金額の5パーセントが保険金として支払われます。

地震保険に関する詳しい内容は、（一社）日本損害保険協会（電話：0570-022808、ホームページ：http://www.sonpo.or.jp/）までお問い合わせください。

地震による経済的被害に備える自助努力を支援するため、所得税等の課税対象となる所得額から、地震保険料にあたる額を控除することができます。詳しくは、お近くの税務署までお問い合わせください。

地震について

平成7年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）や平成28年4月に熊本県熊本地方で発生した熊本地震などは、陸地の地下で活断層が活動して起こった内陸型地震で直下型地震とも呼ばれます。

一方、平成23年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）や、近い将来に発生する可能性が高いとされている南海トラフ地震（東海地震や東南海地震を含みます）は、プレート境界の海溝付近で発生する海溝型地震です。

これまでに鹿児島県で発生した主な地震と活断層

地震名	震度	発生年
1994年 薩摩川内地震	M=5.7	1994
1997年 大隅地震	M=6.3	1997
1998年 大隅地震	M=6.1	1998
1961年 大隅地震	M=5.5	1961
1915年 大隅地震	M=5.0	1915
1997年 大隅地震	M=6.2	1997
1999年 大隅地震	M=6.4	1999
1913年 大隅地震	M=5.7	1913
1893年 大隅地震	M=5.3	1893
1894年 大隅地震	M=6.3	1894
1914年 大隅地震	M=7.1	1914

薩摩川内市の南部には、市来断層帯と呼ばれる活断層が分布し、活動した場合には市の南部を中心に大きな揺れが起こる可能性があります。

また、政府の地震調査研究推進本部は、2017年2月21日に断層帯を主要活断層に加えました。断層帯は、①上甕島北東沖区間、②観区間、③辻の堂断層を含む区間の3つに区分されています。①上甕島北東沖区間②観区間のそれぞれが単独で活動した場合、①の区間ではM6.9程度、②の区間ではM7.5程度の地震が発生する可能性があります。断層帯においては、過去の断層活動に関する調査研究が行われていないため、今後の調査次第で被害想定が大きく変わる可能性があります。

悪質なりフォームによる被害急増！

市では、申込がされていない方に直接電話・訪問での勧誘をしておりません。

現在、訪問販売によるトラブルが多発しております。特に一人暮らしの高齢者を狙った悪質な住宅リフォームによる消費者被害が社会問題にもなっておりますので十分ご注意ください。

あなたの生活を快適にする住宅リフォームです。失敗やトラブルのないよう、十分ご注意ください。

地震に強い工法（耐震・制震・免震）

最近では一般家庭の住宅でも新耐震基準の耐震性を確保し、より地震に強い構造を目指して、様々な工法が開発されています。代表的な工法として「耐震」・「制震」・「免震」が挙げられます。

耐震

免震

制震

建物全体で耐える

基礎は固定

揺れを減らす

基礎が滑る

揺れを吸収する

地震が起きた時

■家中

丈夫なテーブルの下などに身を寄せ、揺れがおさまるまで様子をみて下さい。揺れがおさまってから火の始末をして下さい。

■自動車運転中

少しずつスピードを落としながら左側に寄せて下さい。避難する時は窓を開け、エンジンキーはつけたままドアロックはしないで下さい。

■乗り物の中

急停車する場合があるので、つり革や手すりにしっかりとつかまって下さい。指示がない限りは不用意に車外に出さないで下さい。

■街の中

繁華街やビル街で地震に遭遇した時は、落下物から身を守って下さい。地震で傾いたり倒れやすいもの、垂れ下がった電線などには近づかないで下さい。

家を空けて避難する時…

- 避難宅を狙った空き巣被害が多発するので、貴重品を家に残さない。
- 丈夫な履物、動きやすい服装に着替える。防寒具を用意する。
- 火災を防ぐため、家を出るときは電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- 外出中の家族にメモを残す。
- 避難は徒歩で、バイクや自動車は使わない。

地震発生時の情報・安否情報

NTT災害伝言ダイヤル 171

をダイヤルし、ガイダンスにしたがって録音・再生を行ってください。
30秒間メッセージを録音できます。

災害用伝言版 web171

<https://www.web171.jp>

被災者 ↔ 被害用伝言版 ↔ その他の地域

●食品や飲料水の備蓄方法

■行政による支援までには時間がかかります。家庭の備蓄は1週間分以上必要です。

■水は一人一日3L必要です。いざとなったら、プロのくみ置きやトイレのタンクの水でしのぎましょう。

■消費期限には注意してください。

■レトルト食品や乾燥食品などは消費したら買い足すようにして、備蓄を循環させることも大事です（循環備蓄）。

■冷蔵庫には「保冷剤」を常備しましょう。

●非常持出品置き場

■枕元、出入り口付近の下駄箱、車のトランクの中など、家が壊れた場合でも取り出せる場所に置きましょう。

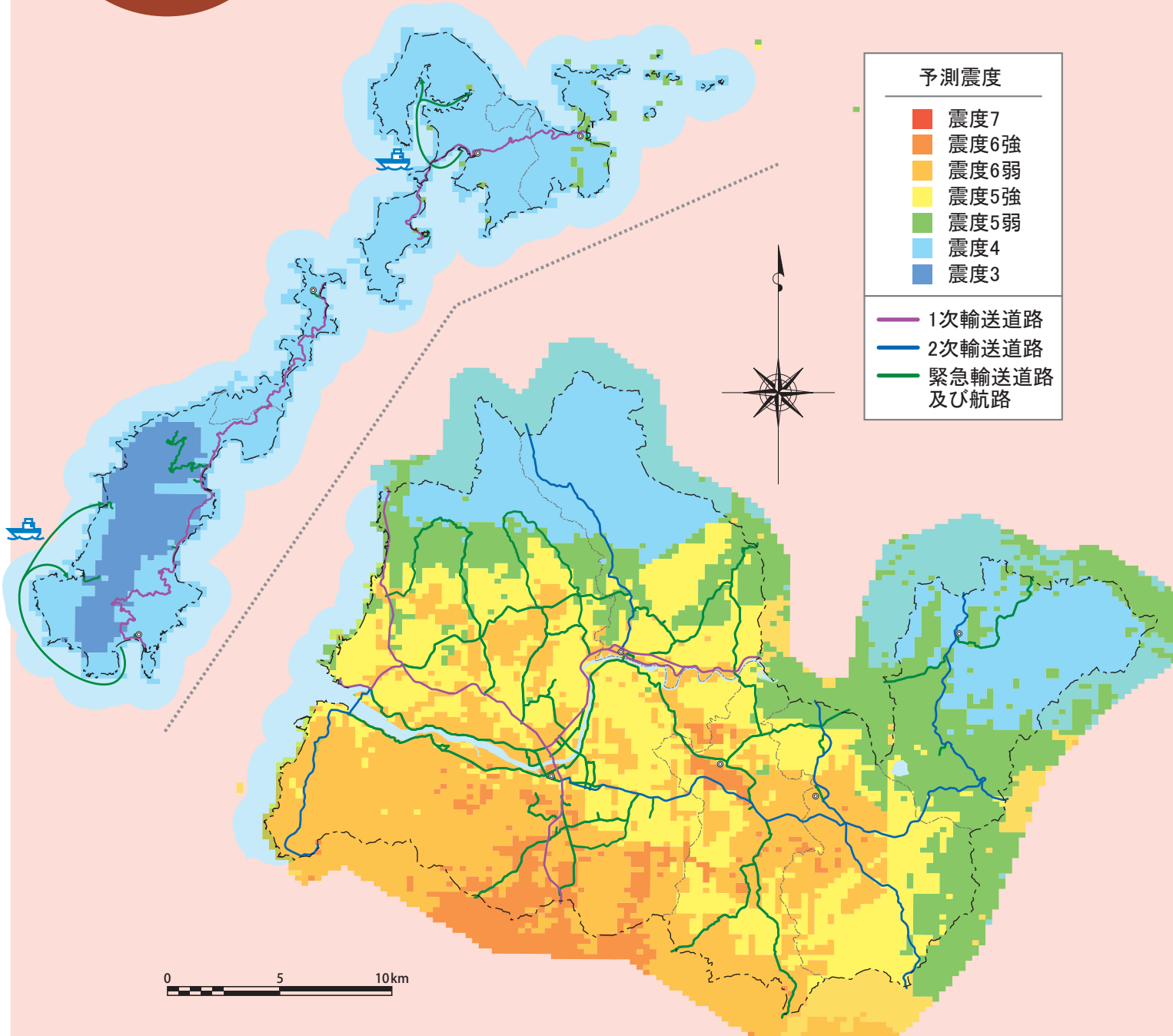
揺れやすさマップ

想定地震による予測震度分布

揺れやすさ
マップ
その2

市来断層帯(市来区間)による地震を想定

市来断層帯に近い市の南部ほど、想定震度が大きくなる(最大6強)と予想されています。



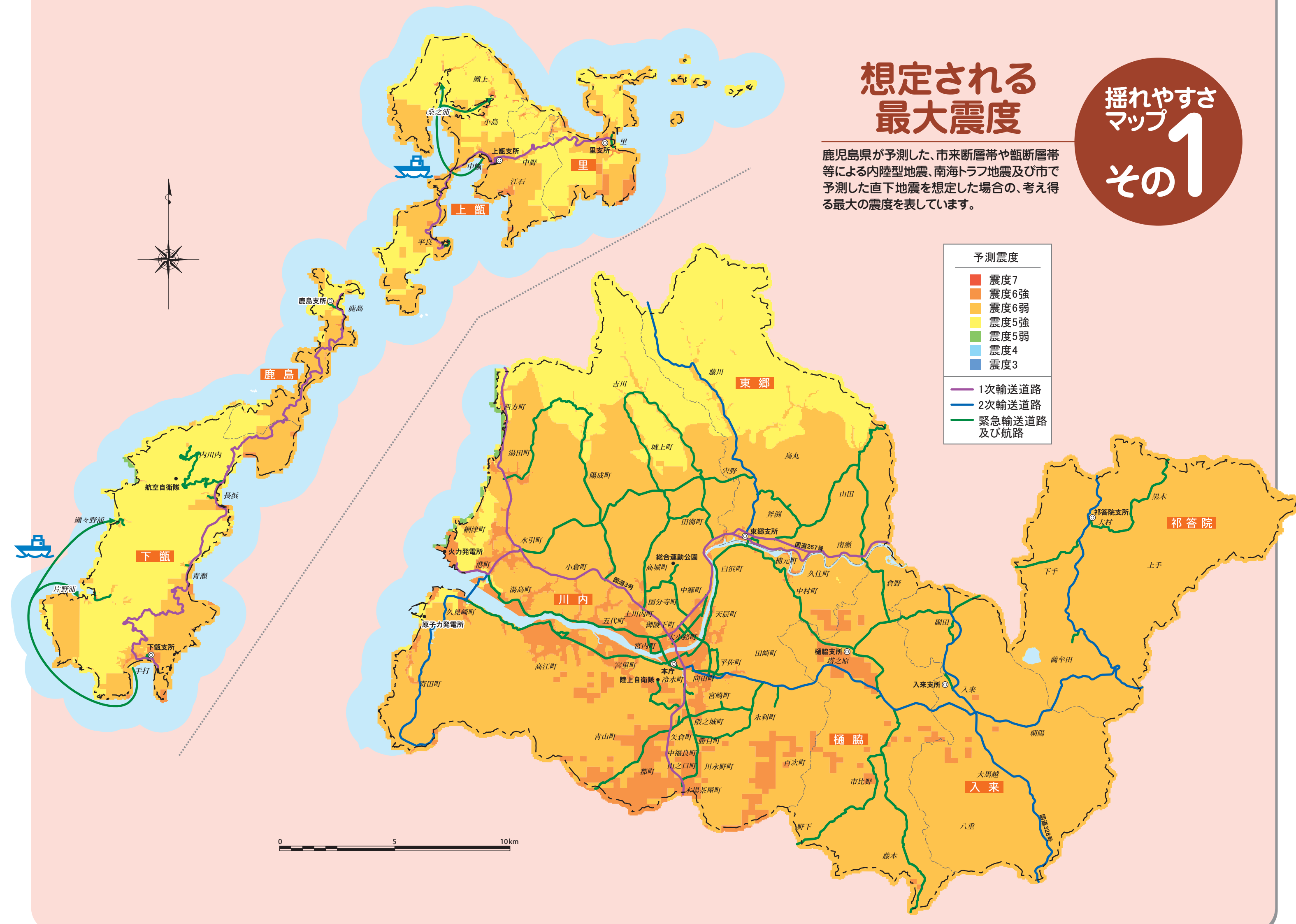
この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。
詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。
気象庁震度階級関連解説表 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

気象庁資料

想定される最大震度

鹿児島県が予測した、市来断層帯や断層帯等による内陸型地震、南海トラフ地震及び市で予測した直下地震を想定した場合の、考え得る最大の震度を表しています。

揺れやすさ
マップ
その1

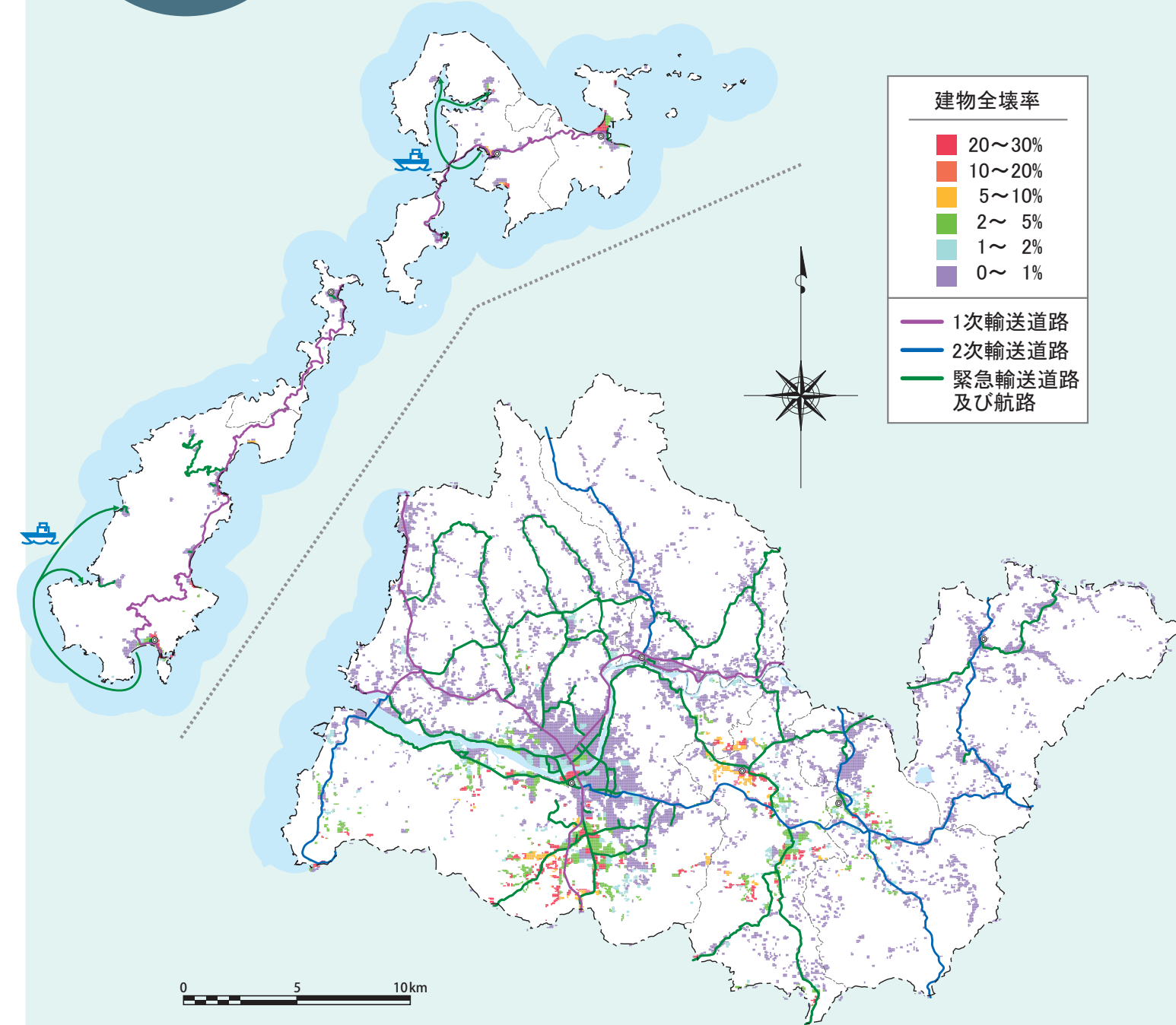


地域危険度マップ

(建物全壊棟数率)

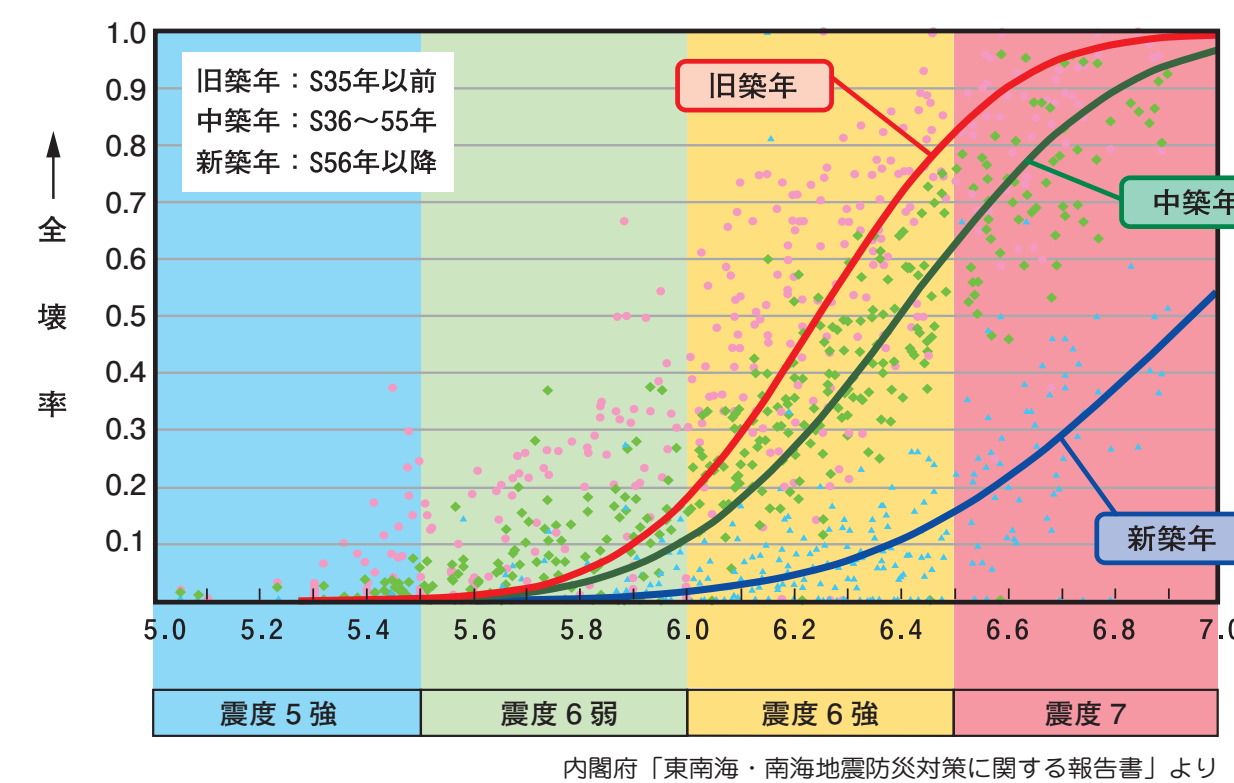
地域危険度
(建物全壊率)
マップ
その2

市来断層帯(市来区間)による地震を想定



この「地域危険度マップ」では、揺れやすさマップで示した揺れが発生した場合に予想される建物全壊率を指標にして、地域の危険度を表しました。
建物の倒壊の要因は、建物の構造や建築年代の違いによる建物の耐震性の有無と揺れの大きさにあります。予測震度が高い地域や、耐震性が低いとされる昭和56年以前の建物の割合が多い地域では、地域危険度が高くなっています。
建物全壊率は最大で20%強と予想されます。この地図をご覧になって、ご自宅やご自身がよく行く場所の耐震性について考えてみてください。

木造建物の全壊率テーブル



阪神淡路大震災で被災した西宮市の木造建物の全壊率から、震度6強以上になると全壊率が急に上昇することが分かっています。

避難する場合には…

危険箇所には近づかないようにしましょう。
地域に潜む危険を認識し、被害の軽減に努めましょう。
避難所や避難方法を話し合っておきましょう。
実際に家から近くの避難所まで歩いてみて、道筋や危険箇所などの確認をしておきましょう。
火災や土砂崩れなどの災害が発生する可能性もあります。
避難の際には、注意しましょう。



想定される最大震度より算出

※鹿児島県による震度予測と直下地震を想定した場合の、考え得る最大の震度を基に算出しました。

地域危険度
(建物全壊率)
マップ
その1

